

史跡旧島松駅通所 公開活用・展示・動線についての現状と課題
 (「史跡旧島松駅通所保存活用計画」(案)より抜粋)

1. 展示

(1) 保存管理の現状と課題

1) 史跡指定範囲内の現状と課題

①現状

■駅通所

旧島松駅通所廃止以降、複数回の修理工事が実施されている。

年	修理工事等
明治30年(1897)	島松駅通所廃止
大正5年(1916)	広島村により上手行在所部分買上げと修理が行われる
昭和8年(1933)	「明治天皇島松行在所」として国の史蹟に指定
昭和11年(1936)	明治天皇島松行在所修理工事
昭和23年(1948)	他の日本各地の明治天皇「聖蹟」とともに史跡指定解除
昭和43年(1968)	北海道指定史跡に指定されたため「現況調査」実施
昭和44年(1969)	北海道指定史跡島松駅通所跡保存修理事業に着手 (建物、蓮池、庭園などの整備) 工事期間：昭和44年(1969)～昭和45年(1970)
昭和59年(1984)	7月25日「旧島松駅通所」として国の史跡に指定 「史跡旧島松駅通所保存修理工事」実施 (建物、庭園、蓮池などの整備) 工事期間：昭和59年(1984)～平成2年(1990)

■その他の諸要素

史跡指定地内には複数の石碑や、石造蔵品庫、石門などが設置されている。

■古文書(北広島市エコミュージアムセンター所蔵)

史跡旧島松駅通所保存修理工事を実施した際に板壁の下張りなどから発見された、島松駅通所の運営などに関する文書である「旧島松駅通所保存修理古文書」と、久蔵の子孫から寄贈された久蔵に関係する写真や賞状、手紙などが含まれる「中山家資料」など、253点が市の指定文化財となっている。

■中山久蔵関連資料(北広島市エコミュージアムセンター所蔵)

中山久蔵関連資料は寄贈された資料も含め多く遺されており、駅通所内、エコミュージアムセンター知新の駅などに分散して保管されている。

②課題

- 昭和59年(1984)から実施された保存修理工事完了以降、駅通所や石碑などでは老朽化が進行しているため、保存のための整備、維持管理が必要である。
- 関連資料は多いものの資料の収蔵スペースに限りがあり、関連資料を確実に保管することができる収蔵スペースの確保が求められる。
- 中山久蔵に関する古文書のさらなる調査研究が求められる。
- 史跡指定地内の石碑等は、いずれも石材の割れなどの老朽化が見られる。



軟石劣化状況



軟石劣化状況



軟石劣化状況



軟石劣化状況

2) 維持管理の現状と課題

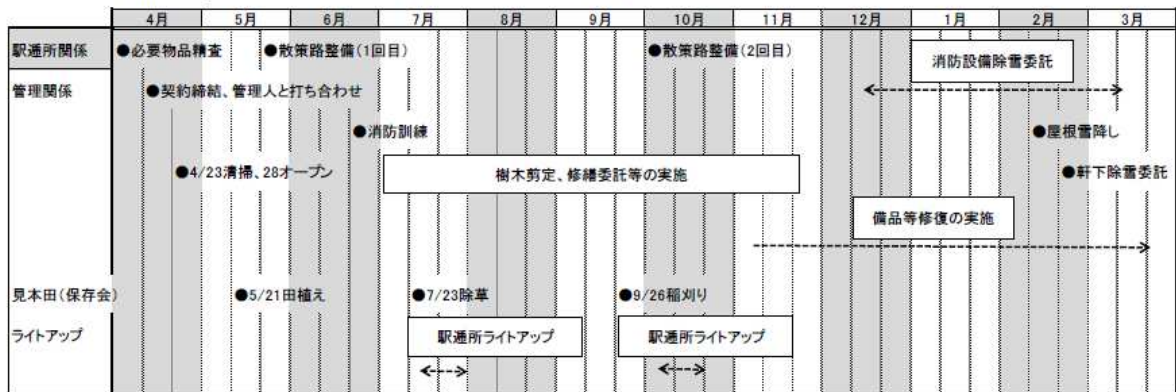
①現状

史跡指定地の土地所有者は個人であったが、昭和59年度（1984）に広島町により公有地化され、平成2年度（1990）までに大規模保存修繕工事を実施した。史跡の維持管理は主として教育委員会が行っているが、開館期間内は、委託管理者の協力を得て、駅通建物の通用口及び正面玄関の開閉や観覧料の徴収、簡易整備、灌漑施設の草刈り、建物内外の清掃、観覧者に対する説明などの業務を行っている。また史跡敷地外に所在するトイレ・駐車場についても、委託管理者が維持・管理を行っている。冬季閉鎖時は、駅通所家屋の崩落防止の目的で、教育委員会が屋根の雪下ろしを行っている。

冬季を経てその年で初めての開館にあたっては、市民団体のボランティアなどの協力のもと、開館前の清掃が行われる。

※参加人数：約 40 人程度

参考：年間のスケジュール（平成 31 年度（2019）版）



②課題

委託業務により、基本的な管理を行っているが、庭園内の樹木から発生する大量の落ち葉の処理や、隣接する私有地の草刈りなどについては、市民団体のボランティアなどが対応している。これらの業務については、市民の史跡に対する愛着の醸成にもつながることから、より多くの市民の協力を得る必要がある。

(2) 整備の現状と課題

1) 史跡の保存・継承のための整備に関する現状と課題

①現状

ア 本質的価値の構成要素

・駅通所

駅通所は、昭和59年（1984）より実施された改修工事後、老朽化が進行しており、天井の雨漏りや柱の割裂、水切りの欠損、桎葺のコケ繁殖などが見られる。

・井戸、石碑など

井戸屋形の大棟が腐朽しているほか、石碑の老朽化が見られる。



石碑の老朽化

・樹木・植物

中山久蔵が植えたと言われているサクラやナシ、中山久蔵が食料にしていたというオオウバユリ、7月に花を咲かせ観覧者を楽しませているヤマユリ、蓮池のハスなど、歴史的価値のある植物や観光資源として価値のある植物がみられる。



近年、ハスの生育が悪く花が咲かない年があった。また、池の護岸部等の劣化が見られる。史跡内の樹木は、一部老木化しているものがある。

イ その他の要素

・防災設備

消火設備として貯水槽の上部にポンプ小屋が設置されているほか、駅通所の周囲には放水銃2基、消火栓が3か所設置されている。

②課題

- ・本質的な価値を損なわないよう十分留意したうえで駅通所や井戸屋形、石碑などの老朽箇所の修復が必要である。
- ・倒れる危険のある樹木のほか、枝や根が史跡に影響を及ぼす恐れのある樹木について、剪定や伐採の必要があるほか、蓮池のハスの花が咲かないことや護岸部の擬木支柱や擬木柵板、オーバーフロー管の劣化などから、ハスの栽培管理や池の改修が必要である。
- ・防火設備の適切な点検、整備の継続が必要である。

2) 史跡の本質的価値の理解のための整備に関する現状と課題

①現状

ア 史跡に関する展示

史跡に関する説明については、駅通所内に解説パネルを掲示しているほか、必要に応じて参考資料やDVDプレイヤーなどを配置している。市指定文化財である中山久蔵関係資料群の一部は駅通所内で展示されている。その他の関係資料群はエコミュージアムセンター知新の駅で展示または保管されている。

イ 案内板・解説板

駅通所や赤毛見本田などの主要な施設については、解説用の立て看板が設置されているが、支柱などの木部の老朽化が見られる。



老朽化した解説版

②課題

- ・効果的な情報提供を行うために展示の充実、調査研究の深化が必要である。
- ・史跡の本質的な価値を伝えるため、案内板や解説資料の充実が必要である。

3) 史跡の公開のための整備に関する現状と課題

①現状

ア 駅通所

耐震性が十分ではなく、強い地震の際には倒壊のおそれがある。

イ 照明（屋内照明・展示照明）

駅通所内には、屋内照明が設置されている。解説パネルや中山久蔵ゆかりの賞状などの展示物や、展示ケース内に照明が設置されている。



駅通所内の照明

ウ 史跡へのアクセス

国道36号からの案内サインが設置されているものの視認性が低く、また、史跡のイメージにあったデザインとなっていない。

エ 樹木

庭園部分には中山久蔵ゆかりの樹木などが生い茂り、鬱蒼とし、老朽木もみられる。また、駅通所裏手斜面の樹木は、倒木等による建物への影響が懸念される。

オ 便益施設

・園路・階段

庭園側に園路、石造の階段が設置されている。園路は、不陸などの老朽化が見られ、また雑草などにより園路が明確ではない部分がある。

階段は、軟石造りで老朽化が見られる。

・トイレ

旧島松駅通所前、駐車場に隣接してトイレが設置されている。男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレが整備されている。

・駐車場

旧島松駅通所前に駐車場が整備されている。冬期間は、駅通所とともに閉鎖している。



駐車場のトイレ



駐車場

②課題

- ・駅通所は、地震によって文化財的価値が損なわれることなく、また活用上十分な安全性が確保できるよう、地震により許容される被害程度の水準を定め、耐震改修を行う必要がある。
- ・快適な屋内展示空間の確保のために、照明は本建築の本質的な価値を損なわないよう十分留意したうえで、観覧者の安全を確保するとともに、公開施設として適当な明るさを確保する必要がある。必要に応じて展示物のための照明の充実を図る必要がある。
- ・庭園の樹木は鬱蒼としているため、適切な剪定や伐採が必要である。史跡の歴史にふさわしくない樹木や、駅通所や碑など史跡の価値を構成する諸要素に影響が懸念される樹木は、対応を検討する必要がある。
- ・トイレの老朽化への対応が必要である。
- ・現在の駐車場は、大型バスなどの乗り入れができないため、今後、市が予定する周辺整備にあわせた拡張等の検討が必要である。

2. 動線

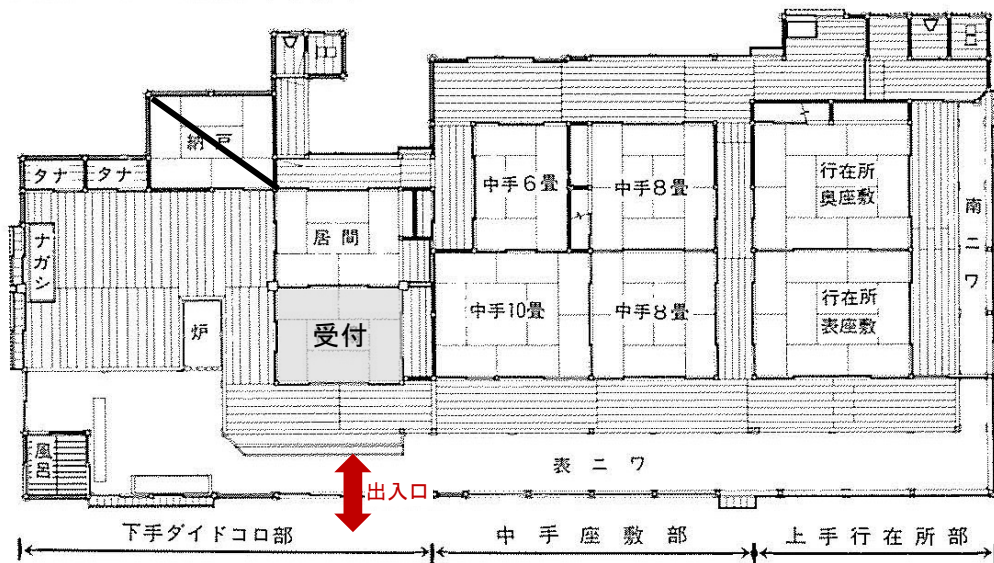
① 現状

史跡全体及び駅通所内部の見学者動線が定まっておらず、見学者が自由に見て回るものとなっている。車イス等での見学が困難な園路や階段なども存在する。

■ 史跡全体



■ 駅通所内部



②課題

- 史跡の本質的価値を伝える内部・外部空間の動線を検討する必要がある。
- 観覧者が安全・快適に利用できるよう園路や階段を適切に維持管理するほか、バリアフリーのエリアを確保するなど歩行環境の向上を図る必要がある。
- 国道36号からのアクセス向上や通行者への周知のため、周囲の景観や史跡の歴史性にあった案内サインが必要である。

3.公開活用

(1) 公開の現状と課題

①現状

ア 史跡等の公開

史跡は平成3年度（1991）以降、4月末から11月上旬まで一般公開している。館外については、石碑や見本田等に見学道を設けて、それぞれに説明板を設置している。館内見学は有料（大人200円、小中学生100円）とし、委託管理人による解説を聞くことができる。なお、冬季は閉鎖している。

※平成30年度（2018）入場者数

入館者 2,464 人、庭園見学者数 3,510 人、計 5,974 人（4/28～11/3）



説明板



行在所の展示



赤毛見本田

イ ガイド

通常のガイドは、駅通所管理人により行われているが、市教委学芸員がガイドを務めることがある。また、平成19年度（2007）から開校した「まちを好きになる市民大学OB会」有志によるボランティアが、歴史遺産等を巡るガイドツアー等で活躍している。



ガイドによる見学の様子

②課題

- ・ 観覧者に史跡の価値を知ってもらうことが重要であるため、史跡の本質的価値をわかりやすく伝える方策が必要である。
- ・ 史跡の見学や解説だけでなく、周辺に位置する石碑や島松川などの地域資源や周辺環境も含めた魅力や価値を知ってもらう方策が必要である。
- ・ 史跡の魅力を伝えるガイドの育成が必要である。

(2) 情報提供や企画の現状と課題

①現状

ア 情報提供

市のホームページに史跡の概要や開館時間などの情報を掲載している。ライトアップ事業などのイベントの情報については、北広島市の広報誌である「広報北広島」に案内を掲載している。

イ 活用に関する企画

これまで史跡を活用して、様々な企画やイベントなどが開催されてきた。W・S・クラークや寒地稲作に関連したイベントが多く実施されている。また、ウォーキングやサイクリングイベントなどでは、立ち寄り地としても利用されている。主な企画を下記に記す。

企画名	内容
クラークフェスタ130	平成19年(2007)はW・S・クラークが島松沢で学生たちに「青年よ大志を懐け」の言葉を残してから130年。これを記念して開催されたクラークフェスタでは、当時を再現する野外劇などが行われた。
久蔵&クラーク祭り・クラークフェスタ140	平成29年(2017)には「青年よ大志を懐け」の別離から140年を記念するイベントが市民の実行委員会により開催され、W・S・クラークが学生たちと別れる場面が野外劇で再現された。
芝居	市芸術文化ホールのアウトリーチ事業として、平成17年(2005)、平成18年(2006)に「北へ」と題された芝居公演が駅通所で実施された。北海道の米作りに生涯をかけた中山久蔵の人生を、独り語り、琵琶演奏、芝居で現代に伝えるものであった。
寒地稲作130周年記念事業	平成15年度(2003)に、寒地稲作130周年記念事業を行った。130年前に寒地稲作を成功させた中山久蔵の偉業をたたえ、水稻農業や歴史に触れ、北海道における米作りの文化を北広島市(島松)の地から発信し、「楽しむ・学ぶ・食する・記録する」をテーマに事業を展開した。
きたひろ昔あったとき「小さな駅通所展」	平成19年度(2007)に道都大学から寄贈を受けた1/20の駅通所の模型を中心とした展示を行い、その役割や中山久蔵の功績を紹介したほか、駅通所の建築構造に関する講演会等を開催した。
寒地稲作140周年記念事業	平成25年度(2013)には、寒地稲作130周年記念事業同様、道央以北では稲作が不可能とされた地で、赤毛の栽培に成功した中山久蔵を称える事業を実施した。久蔵の功績等をつづる「赤毛伝説～中山久蔵展」や駅通所の夜間開館及びライトアップ事業を実施したほか、久蔵の偉業を称える「久蔵祭」を開催した。
ライトアップ事業	平成25年(2013)に寒地稲作140周年記念事業から始まったライトアップ事業は、平成26年(2014)以降も継続して毎年夏と秋に実施している。 ※平成29年度(2017) 来場者数夏：76人(7月29日～8月6日) 秋：240人(10月14日～10月19日)
市内見学バスツアー	平成21年度(2009)から始まった市内の歴史・自然遺産等を巡るバスツアーでは、その年のテーマに合わせて旧島松駅通所の歴史や中山久蔵の功績等を紹介している。
スタンプラリー	平成19年(2007)～平成21年(2009)、平成25年(2013)に札幌広域圏組合の主催により「ふるさとの魅力8見(はっけん)スタンプラリー」が実施され、旧島松駅通所がスタンプポイントの一つとなった。
30キロ歩ける会	平成22年(2010)及び平成26年(2014)以降に行われた、北広島市体育指導委員協議会主催による「30キロ歩ける会」は、市内各地を巡るウォーキングの中継ポイントの一つに旧島松駅通所が選定された。
JRヘルシーウォーキング	平成21年(2009)、平成25年(2013)に、JR北海道・さっぽろ広域観光圏推進協議会の主催によりJR島松駅から旧島松駅通所までの道のりを散策するイベントが実施された。
えにわ自転車散歩	恵庭市の企画により、平成23年(2011)、平成24年(2012)に「えにわ自

2011・2012	転車散歩」が実施され、その休憩地点として旧島松駅通所が選定された。
発見の小径を歩く	平成28年度（2016）から、まちを好きになる市民大学OB会と市教委の共催により、駅通所周辺の自然遺産、歴史遺産を巡るガイドツアーを実施している。
ツール・ド・キタヒロ	平成25年度（2013）から始まった自転車による観光ツアーでは、旧島松駅通所がエイドステーションとして利用されている。
企画展「中山久蔵と島松駅通所」	平成27年（2015）に寒地稲作と北海道交通史上における駅通所の意義に焦点を当てた企画展示を行ったほか、駅通所制度についての講演会や北海道の稲作に関する講演会を開催した。
北海道150年記念事業「米フェスタ」	平成30年（2018）に当市で開催した北海道150年記念事業未来へつなぐ米の歴史発信事業「コメフェスタinきたひろ」において、中山久蔵の功績のほか、当時栽培された赤毛の由来等に関する講演会を開催した。このほか、中山久蔵と駅通所、赤毛に関連したパネル展示や農具等の展示を行った。
企画展「北広島のお米から北海道のお米へ」	北海道150年記念事業の一環として、中山久蔵の寒地稲作の成功とその後の北海道各地への栽培の広がりについての企画展を開催した。国の研究機関の協力を得て、遺伝子から見た赤毛の発祥や耐寒性の獲得などに関する展示を行った。
旧島松駅通所見学会	北海道150年記念事業の一環として、バスツアーを実施した。駅通所の周囲に中山久蔵の故郷である大阪府太子町から借用した灯籠を飾りライトアップし、史跡の見学のほか、史跡隣接地で赤毛米を使用した酒や菓子の試食等を行った。
中山久蔵翁没後100年記念事業	令和元年（2019）に「中山久蔵翁没後100年記念シンポジウム」を開催し、道内外の研究者等が中山久蔵と駅通所に関する講演を行った。またミニ企画展「中山久蔵翁没後100年展」をエコミュージアムセンターで開催し、中山久蔵の功績と駅通所の歴史について紹介した。また、秋のライトアップに合わせ、企画展と史跡を解説するバスツアーを実施した。
メディアによる紹介	これまでに、NHK及び民放各局により取材され、テレビ放送等により駅通所や中山久蔵、クラーク碑が紹介された。また、ラジオや新聞等による紹介もなされている。

②課題

- ・ 史跡の価値を市民や来訪者などにわかりやすく伝えるために、市ホームページの充実やより魅力が伝わるパンフレットの作成など積極的な情報発信が求められる。
- ・ 史跡や周辺の歴史・文化などを、市民や来訪者に体験してもらい、史跡の価値の周知につながるようなイベントが必要である。

(3) 学習の場としての活用の現状と課題

①現状

ア 学校教育

平成3年度(1991)から、北広島市立西部小学校の児童による赤毛見本田の田植え(5月中旬頃)から稲刈り(9月下旬頃)までの体験事業を実施している。苗は北広島市水稻赤毛種保存会から提供され、寒地稲作発祥の地で、北広島市水稻赤毛種保存会会長の指導のもと、昔ながらの手法による稲作の体験を通して中山久蔵の偉業を伝えている。また、市内の小学校の社会見学の見学先として利用されている。



田植えの様子

内容	参加者	
	2018年	2019年
田植え	4年生2学級 59人	4年生2学級 43人
除草	4年生2学級 59人	4年生2学級 45人
稲刈り	4年生2学級 59人	4年生2学級 44人



駅通所内見学の様子

イ 社会教育

北広島市の自然や歴史などについて2年間で学ぶ市民対象とした「まちを好きになる市民大学」の「まるごときたひろ博物館員 養成課程」の講義のうち、ボランティア特講などで活用されている。

ウ 教科書・書籍等への掲載

小学校社会科の教科書や副読本のほか、様々な書籍等に掲載されている。

- ・『ほっかいどう百年物語—北海道の歴史を刻んだ人々—』平成14年2月STVラジオ発行
- ・『小学社会5年上』～食糧生産を支える人々～平成22年3月教育出版発行
- ・『北海道旅の情報誌THE JR Hokkaido 特集～北海道米の原点・赤毛種を訪ねて～No.271』平成22年9月JR北海道社内誌発行
- ・『興農富村の研究—近代日本の稲作をめぐる農民の営み—』郡司美枝著平成23年11月刀水書房発行
- ・『北限の稲作にいどむ”百万石を夢みた男”中山久蔵物語—』川嶋康男著平成24年12月農山漁村文化協会発行
- ・『北の墓 歴史と人物を尋ねて上』合田一道著平成25年柏艚舎発行
- ・『中山久蔵の足跡を辿って』橋本博編平成26年1月中山久蔵を顕彰する会発行
- ・『小学校社会科副読本わたしたちの太子町』～昔から今へと続くまちづくり～平成27年4月太子町教育委員会発行
- ・『小学校社会科副読本北広島』平成28年3月北広島市教育委員会発行

②課題

- ・寒地稲作発祥の地であることや駅通所として使用された歴史、昭和の初期に明治天皇の行在所として史跡指定された歴史があることなどの周知のためには、より多くの学校に活用されるよう促していく必要がある。
- ・学校教育では、小学校だけでなく中学校、高等学校等の教育での活用が望まれる。

(4) 周辺地域と一体となった活用の現状と課題

①現状

- ・ 史跡周辺には、中山久蔵が水を引いた河川（仁井別川等）や石碑等の軟石を採取した石切場、中山久蔵と交流していたと考えられるアイヌのチャン跡など、史跡や中山久蔵ゆかりの諸要素が存在している。
 - ・ 市教育委員会では、数多くの歴史遺産や自然遺産、産業遺産が残されている史跡周辺一帯を「旧島松駅通所周辺サテライト」として指定しており、周辺の各遺産への説明板の設置やパンフレットの制作のほか、これらの遺産を巡るガイドツアーなどを市民団体と協働で実施している。
- ※北広島市が取り組む「エコミュージアム＝屋根の無い博物館」では、それぞれの遺産が持つ特性などに注目し、関連する遺産をグループ化したものを「サテライト」と呼んでいる。

②課題

- ・ 史跡と周辺地域の諸要素に関する説明板や案内板等の充実、ホームページ等での情報発信など、史跡周辺を一体的に活用するための情報提供の取り組みが必要である。

(4) 運営・体制の現状と課題

1) 管理運営体制の現状と課題

①現状

- ・ 北広島市教育委員会が所管し、日常的な史跡保全管理と観覧者への対応を外部へ業務委託している。
- ・ 北広島市教育委員が主催するバスツアーやライトアップなどのイベントについては、主に直営で実施している。

②課題

- ・ 積極的な史跡の活用に向けて、教育委員会だけでなく、観光やまちづくりなど、様々な部局との連携が必要である。
- ・ 北広島市だけでなく、隣接する恵庭市や北海道等、文化財に係わる専門家など多様な関係者との情報交換や連携した調査研究体制の構築が望まれる。

2) 市民との連携

①現状

- ・ クラークフェスタなどのイベントや、駅通所を含めた地域遺産めぐりなど、市民団体が主体となった活動が実施されている。
- ・ 市民団体等の協力により、年1回、駅通所内や敷地の清掃が行われている。

②課題

- ・ 市民の史跡への愛着を醸成し、市民が誇りをもって支える持続的な管理運営に向けて、イベント等の開催のほか、駅通所のガイドや敷地の清掃、蓮池の管理など、史跡の管理運営への幅広い市民参加が望まれる。



市民の協力による駅通所内の掃除の様子



蓮池清掃の様子